

ま え が き

ここに、平成26年度和歌山県教育センター学びの丘研修員の1年間にわたる研修と修養の成果の一端を「研究集録 第40集」として掲載いたしました。

本県における長期研修員制度は、昭和50年に始まり、昨年まで県内各地方に送り出した研修員はのべ512名に上ります。研修員を経験した教員は、各学校・地方の中核的な存在として活躍し、本県教育の充実・発展に大きく寄与しています。

教員には、現代社会の急激な変化に対応し、「生きる力」を育成する教育活動を展開し、児童生徒を豊に成長させるため、身につけた知識・技能を常に新し、教職全体を通じて学び続け、力量を向上させることが求められています。

そのため、本年度、和歌山県教育センター学びの丘における長期研修員研修は、今日的教育課題解決に資するため、教育に関する専門的・技術的事項について研修し、教職員としての資質能力を高め、その成果を本県教育の充実に生かすことを目的として実施しました。教員は絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければなりません。「研究」とは、「物事について深く考えたり調べたりして真理を明らかにすること」、「修養」とは「知識を高め、品性を磨き、自己の人格形成に努めること」を意味しています。今回、研修を「自己の専門性をより向上させるための研究と教員としての資質を広く高める修養の機会」として受けとめ、1年間研究を進めてきました。

これらの成果については、本年1月31日、2月1日に第5回和歌山教育実践研究大会において、報告したところです。各学校においては、この研究集録とともに、関連資料も併せて、これからの教育実践の参考として活用いただければ幸甚です。

最後になりましたが、本年度研修員の研修に際して、御支援・御協力をいただきました学校並びに関係教育機関の方々に、心からお礼を申し上げます。

平成27年3月

和歌山県教育センター学びの丘
所 長 上 野 晃